金葉和謌集

二

八雲和歌集第一　春九十七首

たゝ川春のゝ[illegible]をよめる　源重之

[illegible]の山[illegible]のゝ[illegible]ゆきいたきて
[illegible]いつ[illegible]ゝ[illegible]

西河院内裏百首の歌めしける元日の
[illegible]をよめる　藤原公実朝臣

うらなくもさゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いさ[illegible]の水[illegible]
天徳四年内裏[illegible]

くらりの山のかすみ春ふかん
をつくしてやたちそめけん

中納言家忠

ゆきさえかへるみよしの野の
みちのいとすすんこゝろ

平重國

あさぼらけ有明の月の
そらにのこるかとみるまでに
雪の山ぢのすがた

小弁公教母

ふるさとは
ねぬのはらすすん

藤原頼輔朝臣

立ちかへるやまのかすみなりけり
四月朔日雪のふりけるをよめる

つらゆき

あしたのはらのうのはなりけり
きえのこるゆきとみるまで

昭宣公頼忠

返し

春ちかみ大空ぬ實
きえぬるゆきのかへるなりけり

春ちかみあけて春の
きえぬるゆきのかへるなりけり

そらの雪をよめる

雪まてしらぬ色のつれなくつむ人まつ
ちるさくらへいれわみやまの雪のこと

天徳四年内裏の歌合に紅葉

源順

こがらしにたえぬもみぢ風ふくまさうちわれうらはすの心

平兼盛

わかやうくれはすいさくなくなるうち
遅をたちにはなやちるらん

初雪といふことをよめる

春宮大夫公實

ふるとしやむ先のたちうちうれしの
しるしとなるまりしめるらん

百首の哥のなかに雪のこころをよめる

隆祐朝臣

うちひさのなつけてやゆきはれみを
まひのゆふしてをしらん

むかの十日ころ春たちくるとて
ひさのなかをまてよめる

藤原頼孝朝臣

そのやさしゆきうちうけてうくれすの

[illegible]

天徳四年内裏の哥合

中納言朝忠

わすらるる身をばおもはず[illegible]
風のまぎれに[illegible]

平兼盛

しろたへの雪のみやまにねむ[illegible]
[illegible]

家の[illegible]

よみ[illegible]

大納言道綱母

わすらるる身のいとはかなくて
[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅花夜薫といふこと侍るに

前大宰大貳資房

ひめくるよ風やみてくらんさくらの花はかくれなくてこそまされ

朱雀院にまゐりて関雇梅花といふこと

大納言経信

たちよりやとはむものをれ春の夜はたちまちにこそ

梅花咲けるを

源経孝

うきもなほあるにたちかへるものをれうもれいとふ人のこころを

道雅朝臣家にて梅花をよめる

藤原範永朝臣

水ゆかばうつりもせなけれと梅のいれ

鷹司殿の賀に屏風に百日しろきをかける

こころをよめる

前深養父

ちるはなの雪とのみこそ見えしかの

ねの日の松もうもれぬやとん

六條内宮に百日せんとしたるに

大納言経信

ちのへにてうきもうもれぬ小松たち

[illegible]

五日はつかのころ　　左中将長綱

[illegible]

[illegible]

百首の中に　　大納言実房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源雅兼卿

[illegible]

天徳四年四宣の哥合に[illegible]

平兼盛

[illegible]

故郷の桜折[illegible]

源道済

[illegible]

呼子島[illegible]

前参議俊成

[illegible]

[illegible]

藤原定通

[illegible]

[illegible]

藤原家通卿

[illegible]

花薫風[illegible]

[illegible]

[illegible]

白河乃花見所言[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

南殿の桜をよめる　花山院御製

[illegible]

内侍宣旨のもとにまかりて　小式部内侍

[illegible]

宇治前関白の家の哥合のとき　源俊頼朝臣

山さくらさきそめしより[illegible]

雲井にまがふ[illegible]

新院御[illegible]花野四年といふことを[illegible]

資賢入院中四度

[illegible]に南の[illegible]

[illegible]

[illegible]の哥十首[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山花留人といふこと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠見山花といふこと

大納言道房

花さそふあらしの[illegible]

[illegible]

山花[illegible]

[illegible]

[illegible]

奈良の八重櫻[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢大輔

[illegible]

藤花満庭といへるこころばせを

左兵衛督實綱

けさこそは春のあけぼのとなりにけれ
庭にうつれるふじのはなかげ

頭中將の八講にて十首の哥よみけるに

源俊頼朝臣

ふじの花のまがきにかかるゆきやなにかこの
ものれつたちまがひゆきかとぞみる

藤花のこころをよめる

長實卿

たちまとたれしさくらの宮ゐにも
ふじの花のこころをぞしる

十

行くこころもとまりけり

水上藤花といへるこころばせを

大納言經信

ふじなみはいかにたちまつむやこころの
井ぞこいとこそしるらん

藤花萎衣といへるこころをよめる

藤原永實

ちりもてゆくさくらのこころにくく
いかにいろこのみのぬれぬかりけり

堀河院時のれのちりもてゆきあつめく
ばかりさかりなるものをみたる山のこころばせを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春のゆくへをたづねて山田川くるをまつ

高階經成朝臣

さくらさくやまぢをたづねてゆくはるをしたれをとどめん

藤原隆祐

花のちるばかりくるるこのもとに

さくらにつれなきこころとうらみてもうつりてのちはなれぬるかな

後鳥羽院御歌

月のあるをりをりにあはぬ人をまちてあけぬるこのもとにたちてのちはうつりぬるかな

けふはかぜのなごりをみてとしをこえぬるかなとあるをみてよめる

ながめ侍りしかどもあくるまつ月のかげをしのびてあかしつるかな

もちろんいとのこりなくあのこれをてよみてはかりをこそあのこれをもとあるとこれいはるくまてこそけふはかぜのなごりをみてとしをこえぬるかなとあるをみてよめる

野

なにとなくあかつきのつきをはるのつきのこりをいとはるかぜかな

新院御歌

殘花薫風といふこころを

よめる

檜中納言雅定

ちるをいとはぬものとしらねばこそいとしかるらんかりにぞありける

百首哥中に桂花をよめる

隆源宮頭字

あはれとやのちのわかれのかなしきにたぐへてもとはたれかはしらん

三月三日桃花咲みてよめる

経信卿

やまぢのそのの桃のはなのうへにまたうぐひすのなくかはるらん

十三

春田植をよめる

大納言経信

あをやぎのかげをうつしてながれいでしかはのなかにたちまじりけり

前代をよめる

清宗國元

しるものの野にかくれてうもれしをたれかはしらんこのかはのかげ

後冷泉院法花経供養所にて人々よめる

藤原隆資

山ぢのそのにふりしかはいとかのみをやどりけるかな

寛和二年華山院にて人々よめる

藤原芳能

[illegible]

藤原惟成

[illegible]

水堂歌合

[illegible]

橘俊平

[illegible]

天徳四年内裏歌合

[illegible]

[illegible]

讀人不知

[illegible]

寛治八年関白左大臣家歌合

[illegible]

大納言経信

[illegible]

曉見鶯囀

[illegible]

橘俊宗朝臣

[illegible]

[illegible]

屏風の絵に[illegible]の家に藤花さきたるを
[illegible]

大納言公任

むらさきの雲とみるまでにほひかな[illegible]

いろかへぬ[illegible]

院の面に藤花といふことを[illegible]

太皇東侍

いろこそあらぬ[illegible]

[illegible]

房のかぎりなる[illegible]

[illegible]

檜律所壇賞

[illegible]

豊藤隠れといふこと

良暹法師

松風のたえまにかをるなる

なほ[illegible]

二條院白家にて池の藤花といふこと

大納言経信

[illegible]

[illegible]

百首の哥のなかに藤花をよめる

すんとしの春のはつかの雨ふるに
ふるのゝ雨はなをやはるらん

雨中藤花といへる心を

ぬれてさへふれしをしるしの春さえて
いろをすてたるのちの雨かな

三月晦のころ祝部成茂

ちるのゝちをみちをしまもしらへかな

ふるねこゑもとまらぬやとりかな

源雅重朝臣

のこりなくはなはちりぬるあとにたに
ゆくはるをしらぬ春のはるかな

三月晦日ころ

内大臣

ちるはなをなにとなくもをしまれぬ
はるのゆくへをしらぬ春かな

三月晦の日をよめる

藤原定家朝臣

いとゝかりそめにはるのあはれかな

[illegible]

天徳四年内裏歌合

[illegible]

中納言朝忠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源後撰朝臣

[illegible]

金葉和歌集第二　夏部　百十首

天徳四年内裏歌合

中務

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源清賢朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二條院内裏歌合

藤原盛房

[illegible]

きりぎりすなくこゑもさむしとこそきけ

應德三年冬月内裏にて庭樹紅葉とて

ふるさとのにしきをたれかたちぬらん　院御製

ちりはてぬ　なくこゑもあきのそらなるねぬ

ちりのこりもわかれきりぎり

きりぎりす　なくこゑもあきのそらなるねぬ

さやけしの　月前蟋蟀

大納言經信

ちりはてぬ　なにをたのみのこるらん

永承六年

やのはのうへにあきかぜ　なくこゑは

なくこのひとこゑのやうにてきこゆる

島羽殿にて人〳〵行花の所にまいりて

春宮大夫公實

ゆきのいろにうつりにけるかなこのうへの

をのへのさくらあかなくにかも

行花連歌とゆうことば

大納言道房

いとはるのつきにやさくらのうつりにけるかな

源相方朝臣

ちりはてぬ　なにをたのみのこるらん

源中納言

[illegible]

紅侍従

[illegible]

[illegible]

[illegible]

郭公の哥十首のうちにまつ山ほとゝぎす

摂政左大

[illegible]

拾中納言實行卿の家の哥合に郭公をよめる

左兵衛督実綱

[illegible]

[illegible]

藤原頼輔朝臣

[illegible]

承暦二年四月内裏哥合に郭公をよめる

藤原孝善

[illegible]

郭公をよめる

権僧正永縁

[illegible]

天徳四年内裏歌合に郭公をよめる

坂上望城

[illegible]

[illegible]

院庁勅

[illegible]

後鳥羽院御歌

[illegible]

中納言為家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

為家院宸筆

[illegible]

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

康資王母

[illegible]

[illegible]

皇后宮歌

[illegible]

暁部

源定信

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言経信

[illegible]

[illegible]

花山院内大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言経信

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五月五日家にあやめをふかせるを

左近府生秦兼文

かりそめにいとゝのつくしけるあやめをさ
さゝれしをいかゝとゝまりて

五月雨のころ

藤原定国

さゝれいしをすへつゝありあつまやれ
ゆゝのさゝのしらつゝ

延暦二年自言平五月雨をとゝまる河

大納言経信

ゝゝゝかけるを海の水や雨さゝん
あゝのしをりはしりれ

後朱雀院家哥合

藤原頼仲朝臣

ゝゝゝかけるを水ゝゝゝゝゝゝゝ河
海ゝの河ゝゝゝゝゝゝゝゝ

三言

ゝゝゝかけるをいかりのりのゝゝゝゝ
かけるすいゝゝのゝゝゝゝゝれ

梅雨を市家にあそぶ五月をとゝまる

神祇伯頼仲

あはれの歌のまつよりしく白雪は
月のいるさとかなりけれ

後鳥羽院宮内卿

さとをとをみくさかれぬのをしまかな
こころのとまれやまなくに

藤原頼経朝臣

春をまちいでくれば
さくらかりかすみのうへに

源雅元

實行卿家歌合

野風をまつ

あはれをもすそ野のくさぶかみ
なびけるあきのすゑのつゆ

照射後宮

橘後藤朝臣

ちりしをたれのこりあけぬらん
みてはかりあるとをしまの

源仲正

さらぬ水よりのうへのうかれ
みるとりしらぬやしまのうらかな

天徳四年内裏歌合

壬生忠見

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二條院白家[illegible]

[illegible]

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大江為基朝臣の家の歌合に初の日つくりけるに　僧都清胤

きりぎりす鳴くとはいふしかのこゑのいくのもりの秋のゆふぐれ

百首歌中に　春宮大夫公實

秋ぎりの吹ゆのうへにたなびくは
野辺の露とやいとはるらむ

大宰大弐資業

海ぐしの浦あさのはらのくしの歌を
みそなはしそめて秋の月風
後冷泉院御時春秋哥をよませ給ふに
こゑをきく　右衛門督
ちぢにのみ鳴くとはしらぬ
ゆふされのこゑ秋雲のうへまで
女のもとをまかり　秋月法師
なれいのこゑはいとはしく
人をまつ
七月七日文の所にて
梅の花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源道濟

なれしねやたれ時雨ぞきてそとはいあさぢふにしたに秋風そふく

ゆふ月夜ぬれぬるかぜの大江賀茂

山のそらあすはいかゝとゆふ月夜いつかあけぬとまちしとしの

通盛卿

藤原俊成卿

はるかなるやまさきの秋の夜月のひかりもさしてしらなみ

寛和二年内裏歌合

花山院御製

あさの衣乃月のしらつゆおりくく雲井に秋をなりにしるかな

慈円和

月さえわたりにけりとはいとしたれ

中原長國

秋ぎりのたちまよふみをやとしたれ

同見月さとをしるらんなるらん

頭仲之女

あるともたにしらぬ雲のたえまより

なりやみそらの秋の月

寛治八年八月十五夜内裏歌合

歌池と月と

いるこそなけれとしてやとる

院御製

いけ水にうつれる月をみるにつけ
ゝるのまたにかゝるのとゝろ

大納言経信

てる月のいる海の水よりやゝくまの
山ゆゝるゝ秋のしらくも

八月十五夜をよめる

高階後平

秋のまさやるいりあるかの秋
月いるゝれをまたとゝる

北

題月

民部卿為兼

いにしへもこゝろのこれの月ゆゑにこゝろのこゝろやなれしたすむらん

後冷泉院御百首奇言を動逆をよめる

藤原隆経朝臣

なくこゑのこゝろかなしみかゝるみゝにけるきのしゝ水にけるあるとゝろ

屏風の絵にあるのをよめるこゝろを

中務内侍

人をこふこゑもこゝろねあるこゝろの

きよらかなる水のかゝれるを
駒迎のこゝろをよめる　源仲正

あけぬとて袖をうつすかたにいつるかゝる月の
こゝろたにこゝろやあるのきゝ
八月十五夜のこゝろをよめる　源親房

こゝやけふかはれるかとこゝろみに月をみる
こゝろをしらぬ人にとゝやは
百首の哥中に月をよめる　源後拾遺

こゝろしらぬ人にはかたるあきの月
さゝてもあのすゑのこゝろは
同九月あるこゝの月を後拾遺
よめる　春宮大夫實

あきふかぬ袖のこゝろはかはるとも
こゝろの月のかゝるかはれと
禁中に月をみるこゝろを　大江為政

こゝのへのうちにこゝろをすまして
あれこゝろやはこゝろはれ
清涼殿に月をみてこゝろをよめる

花山院内大臣

ひかりみるかのよの月をまちてこそ
ひとりぬるかとあれるかな

前参議宗通

くものなかなるうねさめの月のけを
きくにつけてやとしてくらす

皇后宮肥後

月をまち
月をみるくもなかるらんなかめ
ゆるくもしるすあるれふかし

源行宗朝臣

人のかよひぬるあとしるらん秋の月見
いるかたをてまちぬる

いるかたをくしてまちえんかむあるの河
なかるる月やしるらんと

大納言経長卿

あの山のはのうへにいでぬるかの月をみて
ながめをる

大納言経信

ながめつるかのうちの月をたにくく
なれのこるかとのなるかれ

承暦二年内裏歌合

春宮大夫実賢

ちかのはまつをもてはやしてめいやうらく
いるかの月をしまとまこと

左近衛中将公実

皇后宮権亮

あきの夜ながらゆくやとなれい

源俊頼朝臣

やまのそまくのこゑのみちのくにまでもとどかなれい

水上月をよめる

摂政太政大臣

あきかぜにたなびくくもしなかりせばいまはかぎりの月かはやまん

宮治部卿家歌合

藤原伊行

かくれやすみねもりいでる月なれい

くもゐにまもるかりのけをこそうれ

秋なよりのつゆにぬれてやどるらん

赤染衛門

いまはとのなかめもかなしかりけれ

きりぬけばなれいでて

きりのやまのこやまの月のかげもしる

題不知

源行宗朝臣

なにとしれくれはまのあしまにたちいでて

こころのまゝにすむやつゆの月のれ

八月十五夜よみ侍りける

平所季

みるとやうれしりぬ[illegible]
くもりてあけぬ秋のの月

宮法八幡前右兵衛督三十講の法華経

赤染

やどりしき月のもとにもきりぬれ
ものすりあくすめいなりけり

太皇太后宮前入道

大納言経信

みるとみねもりいるる月のかけ
ゆくのうち秋のうちなりけり

信濃所源蔵

山月雲

なりにいてもなしてやあれやこれ
をとりてのの月のうちりをい

題雲家にて九月十三夜のうちをよめる

大宰大貳長實

くもかれきつる光とうつる月かけ
ゆうりいねのいかあらしかな

源後拾遺

ひとりてやあの月のうちをいたるかん
れりうちなりてりをうれ

月照古橋といへるうたを詠つる

そらにて人もうらやまれいま
月をうらみまえうれし
　　藤原資光朝臣
雲月をうら
月のうちのさすまに海のうをくゆくすねい
あしのうらやとりなるらん
一条院うまれたまへるのちはつこ
ちりて月ぞうらくるしき
　　源重政朝臣
松やうたうやをうらわる月のうらい
なきうらうねくよりとりや
大炊殿よりまいらせうらう殿とのをのこ

とも陸奥にて哥つかうまつりけるに
　　大宰大貳長賢
さらぬうたうらはるまにうらうらくるるに
いとみやけう秋の夜の月
九月十三夜は関白殿月とのうらうらに
　　源俊頼朝臣
すこのりうらうらやうらうらはるしらん
くものうちのねあうらうらの夜の月
　　藤原経衡朝臣
承永寛殿と哥合のうらう
夜とうたうらうねくものうつるらい

[illegible]

月前に海[illegible]

[illegible]

中務卿

[illegible]

[illegible]

行路暁月といふことを

[illegible]

権僧正永縁

月のみをたづねあはの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宇治殿六十白河家にて雨降暁月と
いへるこころを　藤原元永朝臣

あさあけの月をしみてやとりけり
こゝろにいるこゝろしあるものをそ

月のあるころあはれとて月を
みるのかるゝみやこの月いくとせねを
けるまそ　平忠盛朝臣

あさなゝの月もあはれをかるゝ
なをいりこゝろとみゝ
八月廿五ころ　赤染

あさあけの月いたりなをなをし河
こゝろにきこゝろのしのこゝろ
こゝろくすをこゝろ　前参院宣藤
百しけき野をなをしてこゝろ
ゝるこゝろのしこゝろ　源仲安
こゝかのいはゝこゝろこゝ
こゝろのしのこゝろ
ゝこゝろ　藤原長経
なをこゝ河こゝなるこゝしのあを
こゝあはれのこゝやこゝ

[illegible]

春宮大夫宣貫

[illegible]

三条大納言

[illegible]

東宮侍所

[illegible]

[illegible]

皇后宮権亮

[illegible]

内大臣越後

[illegible]

源雅光

さもしらぬみやこにたれなるめ
しのわけさまやるてれ
権宮廉といふこゝろ

藤原伊家

あきさそふ草はなれ面ふるよもすゑ哀
ちるそしるのこゝろ
野草閑廉といふこゝろ

源後都頭

さゆしのなをわけ野へきこゝろ
なるこゝろいとゝのゆきかけ
廉をこゝろ

藤原頭仲綱

くものなをあきはやさゆ
いとゝあしのやまたけ
たゝ秋こゝろ

大宰大貳長實

しゝすけ山野のさきにてなし
なるこゝろ秋ゝ人ふとゝ
頭隆ゝ家平合こゝろ

権中納言俊忠

しゝをさまたくるこゝろ
野原のこゝろ
女郎花秋こゝろ

藤原頭仲綱

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源忠季

[illegible]

[illegible]

右兵衛佐通

蘭をよめる

[illegible]

[illegible]

神祇伯顕仲

[illegible]

四十

[illegible]

堀河院御時百首歌

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

鳥羽殿にて菊合

春宮大夫公實

[illegible]

[illegible]

源座主ひさしの法院のこうきょうしつを
うえちかうこうと言てのしられたりけるを
明円聖人

かなくるしをなげくなみたのうちかはりてし
をきえつゝしらるゝさまなる
雨中梅花

ゆれもあへぬうめのはなみしみやき所の
ものとあはれなるこゝろをしられわたる
藤原長綱

たゝぬるまのうめのはなの
馬内侍

屏風の絵に霜をちかはりたるこゝろを
藤原長綱

うらもとれをこたのものゝなれ至こゝ
ものの河霧あるこゝろをよめる
河霧をよめる
藤原雲光

うちつけのうをもとゝみてゆのこゝろ
海辺の一海人のあれゆのなり
藤原行家卿

かたこゝろ代をこゝろ
やうこゝろ代をこゝろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言経信

やまちかくおのへのさくらさきにけりたかねのみねのはるかぜ

みはるかすかすみたちこめてはるのいろもしらぬやまのかひかな

桜花滝に映る

藤原俊成

たきつせのしらいとかけてみるかなはるのやまかぜのをりかけ

藤原伊家

たきつせのしらいとかけてみるかなはるのやまかぜのをりかけ

院所の水辺遠き水と落葉といふこと

藤原定家

たきつせのいとかけてみるかなはるのやまかぜのをりかけ

ものあはれなるものはあきのくれ

三夏の中おもしろかりけるなかめかな

ひとりすみのぼりてかへりくるあきのくれ

いなばかな

藤原定家

山ちかの秋のくれ

[illegible]

[illegible]

藤原[illegible]

[illegible]

[illegible]

草はらをよそにくまなくてらす月
かつみるかをりをうしなふ秋のゆふべ

雨中秋晝

いたづらに秋のゆふべもわびやすし
ふるあめのうちのながめは

大納言公任

永暦二年御若宮殿とはせをのことものうた
ども　百首

源行賢朝臣

神かぜ吹しるべの山のもみぢ葉は
しるべしてこそうつりけるかな

後二位藤原親子家乃さくらあり時をしたれ
ける

陸奥大夫頼孝

いたづらに春のあらし山のもみぢ葉は
なるべしとこそ思へ

百首哥たてまつりしとき

[illegible]

源俊頼朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

われはなさくさくら風をしまねれ

百首哥中に

皇后宮肥後

ひかりのうつろふをまちてさくらあるいろを
さきぬしらなんのうつろやあるらん

月照網代

大納言経信

月ぞすみをれあるよるをれ
ふかのうきさんのうつろなりけり

百首哥中に

源重之

さむしいはうちはらはよみやまとり
いはたのもりあるいはうちはらを

岡辺のあるといふことを

藤原兼昌

ありそうみのたちのあくるあさ
いそのなみのすまものをきもと

あるをきもと

藤原長能

河をりはみをしてしたちをうつり
いはをうちはしたちをりあるけり

氷をうつす

藤原隆経朝臣

かりをみはなのををしをれやま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中納言女

いそのかみふるのやしろのつゆしもに
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

屏風の絵に四の月ひとりしてしろき
けるところを　中務

[illegible]

雪中鷹狩をよめる　源道濟

[illegible]

あられふる野のみのうへにあるものは
ぬれぬやとのみ人しるらむ　藤原長能

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鷹狩のこころを　源後拾遺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

皇后宮權大夫

[illegible]

[illegible]

家經卿の[illegible]

[illegible]

康資王母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大納言[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なつとはく[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤原成通朝臣

[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤原忠實

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

三宮

[illegible]
[illegible]
[illegible]

中原長國

[illegible]
[illegible]

長治二年三月五日白家にて行百首色とうつ

ちぶのうちやまとうつ

堀河院御製

うつれとはかりのはるのはなのいろをいかにしてかはるけん

右一條院の高倉の宮の御方にまいらせたまへる

うつ法花経の設供の歌

きみのためにおのれとうつるはなのいろをいかにしてかはるけん

堀河院御中宮亟河院にまいりたまへる

ちぶのうちやまとうつ

まつ

水のはるのはなのいろをいかにしてかはるけん

信中納言俊実

ちぶのうちやまとうつ

法成寺太政大臣家にて水辺花を

大江嘉言

きみのためにおのれとうつるはなのいろをいかにしてかはるけん

河原院にて松陰池といふこころを

恵慶法師

ちぶのうちやまとうつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

堀河院御製

いけ水のそこにすみけるかげをみるにもあかぬちよの春かな

大膳大夫基忠朝臣家音琴鼓山をよめる

藤原行盛

をちこちの川べのやまのうちつくに
春のこすみとなるうぐひす

同大膳大夫惟宗朝臣家琴

藤原敦光朝臣

ちりまがふきさらぎのあけぼのにあさいのさくらはなにぞ

已日樂乃破に雄琴御をとりかなれ
松の野辺をとものさくらつゆ
ちりそめにけるかぜのおと
後冷泉院御時大膳大夫基忠朝臣家琴

藤原家経朝臣

をちこちのさくらはなのいろ
ふかくそめてけるかぜのおと
ちりそめにけるさくらかな

高階明順

なりつるの水いけにすみけるかげ
をみるやまけるこえをきく

花野巡年といふことを詠ける

大宰大貳資賢

いかもこふ元の雫の花野をかなれそ
それの春のいろもうしん

梅宮辺にて中務卿親王の家の花を詠ける

の川ゆきてうつりけるかの人のもの
ゆきてうつりけるを為隆朝臣行事にて侍ける
かきつはた川をしたれとみるやま
いろいろ神をあれとみるやま

周防内侍

みるの川のちのちのちの
いそのいろをもの

藤原通俊

きえつるかいろ
河ねぎ河のつるのけるも

家に侍る頃花の下家哥ども詠みける

きみのいあるのこやはのみとり
いそたちそめしたれたい

権中納言通俊

きみのいまのこのもとりを
みねのあるこのしのさしのさしの

大納言実房

新院御所にて藤花懸松といふことを詠ける

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まろかれのなをとゝめつゝ
ゆきとかれすゝきまねくあらんと

金葉和歌集第六　別離十五首

無名房頼[illegible]丹後守になりてくだりけるに

大納言経信

きみこうやいれのこやこのかれをきくゝ
なかりしかはよりはくるしかりけん

返し

藤原重房

よそにみしなこりの水はあれにけり
わかるゝかたをなにとつるらん

陰関宮信明ゝ

源重之

ゆくへなくなりのゝちはなきものの
のちのこゝろをみやこ野にとゝめん

[illegible]

道貞卿陰園へ[illegible]

和泉式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小大君

[illegible]

[illegible]

帥宣孝卿[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

陸奥守則元朝臣とともに侍りける人々に

[illegible]

菅原資忠

[illegible]

[illegible]

経補御大嘗祭[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きりぎすのいとかなしきこゑ
僧正遍昭
なかれ
ふるさとのあさぢがはらのきりぎすは
ものおもふこゑのかなしきなりけり
松殿道
ふるすのはなのかをかしきあさぼらけ
きりぎすなくこゑ
一條院の皇后宮にまゐりたまへりける人の日向國
へまかりくだりけるに
皇后宮
あるかなきかのみちのくにのはてまでも
ちぎりしかのみちのくにのはてまでも
大隅守藤原棟あきみちのくにのはてまでも

交換歌
皇后宮のきさいのみやのうたあはせ
みちのくにのはてまでもちぎりしかのみちのくにのはてまでも
源俊頼朝臣
ちぎりきとなくこゑ
安藤時朝
いとのうへのたのもしきかのみちのくにのはてまでも
ちぎりきとなくこゑ
源行宗朝臣
ちぎりきとなくこゑ

百首哥中まつのこゝろを

権中納言國信

たのいさらはまつもたちかつるもあらしやなにものかけわたるる

寳治哥百首哥

大納言為氏

あはれまつのこゝろにくらかりのこすつきをたにをしまれさりけり

為仲朝臣陰関宮すまてくるみ人錦

一條のこゝろをよめる

藤原實綱朝臣

たちいさわのまつのはるのまつもまたかわれいまはあのさもいくへくさ

藤原有房

たれしらしたちのあとをもとめてはあるもやこのかけはいれなん

經平大貳とてゆきてはかりけるに

日吉宮のうへ河のほとりにて

権中納言通俊

さしのりのあさ日はまきしなれいてんまつ月はかりれをかすれ

陸奥へまかりくだりけるときに、こののさかの関にまかりあへる

こゝにかりくらす　板倉光親卿

われなりけりとなりにしあつまぢに

ふるさとの梅いかばかりかをるらん

あれこそはれけるかの人のみちのくへまかりけ

るにかりくらす

ふるさとのみなかはまでくだりけるに

ふるもなをなんゆきにのこりける